

学校教育目標

心豊かで、高きをめざし、たくましく生きる子どもの育成 ～優しい子・考える子・丈夫な子～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



宮小だより



令和4年10月21日号
発行:酒田市立宮野浦小学校

「きく」ことから

私たちは誰かと話をするとき、「相手に言いたいことが言えるだろうか」「自分の思いをうまく伝えられるだろうか」ということに意識を向けがちです。しかし、それだけでは話を掘り下げることにはなりません。コミュニケーションは、自分のメッセージを相手に伝えるだけではなく、相手のメッセージを受け取ること、すなわち「きく」ことによって成り立ちます。「きく」という言葉は、現行の常用漢字では「聞く」あるいは「聴く」と記します。とくに身を入れて「きく」ときや、積極的に「きく」ときは「聴」という字を当てることが多くあります。この使い分けによれば、コミュニケーションに必要なのは、ただ「聞く」ことではなく「聴く」姿勢をしっかりと持つことだと思います。

先日の校長講話では、子どもたちに「きく」について次のように話しました。

聞く … 自分から聞こうとしなくても自然と耳に入ってくること。

聴く … 話の内容を自分の言葉で説明することができ、きいた後に自分の感想や考え、疑問を持つこと。

訊く … 「わからない」「これどうするの」と友だちにきくこと

利く … 聞く、聴く、訊くの3つが役に立ち十分に使えること。

「Facebook・LINE・Twitter」などのSNSを利用して言葉を発する人が多くなっています。家族や知人との連絡に使えるだけではなく、不特定多数の人々に向けてメッセージを送ることができますが、SNSでは相手の表情や微妙な反応を知ることができません。そのため、ちょっとした一言から誤解やトラブルが生じることがあります。また、言葉のキャッチボールをしているようで、実は相手のことをあまり気にせず、一方的に言葉を投げかけているだけの人もいるように思われます。

SNSでは、自分は話す番まで待つ必要がなく、自分にとって不快な意見に耳を傾ける必要もありません。相手の意見を「聴く」というより、それが自分の考えと同じかどうかを選び分け、違う意見に対しては激しく罵倒したり無視したりすることもあります。大勢の前で自分の意見を述べることやプレゼンテーションの場で説得力ある話し方をすることも必要ですが、物事を学び、成長するためには聴くこと、それも自分とは異なる意見を真摯に聴く態度が欠かせないと考えます。

私たちは、自分が「当たり前」と思っていることには保守的で異なる考え方になかなか耳を傾けようとしなくなりがちです。しかし、コミュニケーション（対話）は、相手の考え方を拒否したり無視したりするのではなく、また簡単に同調するのでもなく、違いを違いとして受け容れたうえで、自分にとっての「当たり前」を見直してみる。そうやって他者に向かって自らを開いていく対話を学校でも大切にしていけます。「きく」ことを意識した学校生活を子どもたち、保護者、地域の皆さんと一緒に考えていきましょう。

校長